

平成 20 年 10 月の主な地震活動^{注 1)}

番号	月 日	時 分	震央地名 ^{注 2)}	深さ (km)	M	最大 震度	備考/コメント
1	10 月 1 日	9時24分	岐阜県美濃中西部	14	4.4	3	陸域の浅い地震
2	10 月 4 日	16時24分	留萌支庁中北部	10	3.5	4	陸域の浅い地震
3	10 月 8 日	15時07分	千葉県北西部	63	4.7	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震
4	10 月 14 日	12時37分	千葉県北東部 〔千葉県東方沖〕	27	4.3	4	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
5	10 月 30 日	0時48分	宮城県沖	86	5.1	4	太平洋プレート内部の地震

注 1) 「主な地震活動」とは、震度 4 以上の地震、M6.0 以上の地震、陸域で M4.5 以上かつ震度 3 以上の地震、海域で M5.0 以上かつ震度 3 以上の地震、前に取り上げた地震活動で活動が継続しているもの、その他、注目すべき活動。

注 2) () 内は、気象庁が地震情報で用いた震央地名。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

平成 20 年 10 月 27 日に気象庁において第 269 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

1. 地震活動の状況

全般的には顕著な地震活動はありません。

引き続き、静岡県中西部のフィリピン海プレート内ではマグニチュード 3.5 以上の地震の発生頻度は少なく、愛知県の地殻内では地震活動がやや活発な状態になっています。その他の地域では概ね平常レベルです。

なお、長野県南部のプレート境界付近で 10 月 9 日～18 日に深部低周波地震が観測されました。この付近では 9 月 7 日～8 日にも深部低周波地震が観測されています。

2. 地殻変動の状況

全般的には注目すべき特別な変化は観測されていません。

GPS 観測及び水準測量の結果では、御前崎の長期的な沈降傾向はこれまでと同様に継続しています。

本資料中のデータについて

気象庁では、平成9年11月10日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体及び独立行政法人防災科学技術研究所^{*}から提供されたものも震度情報として発表している。

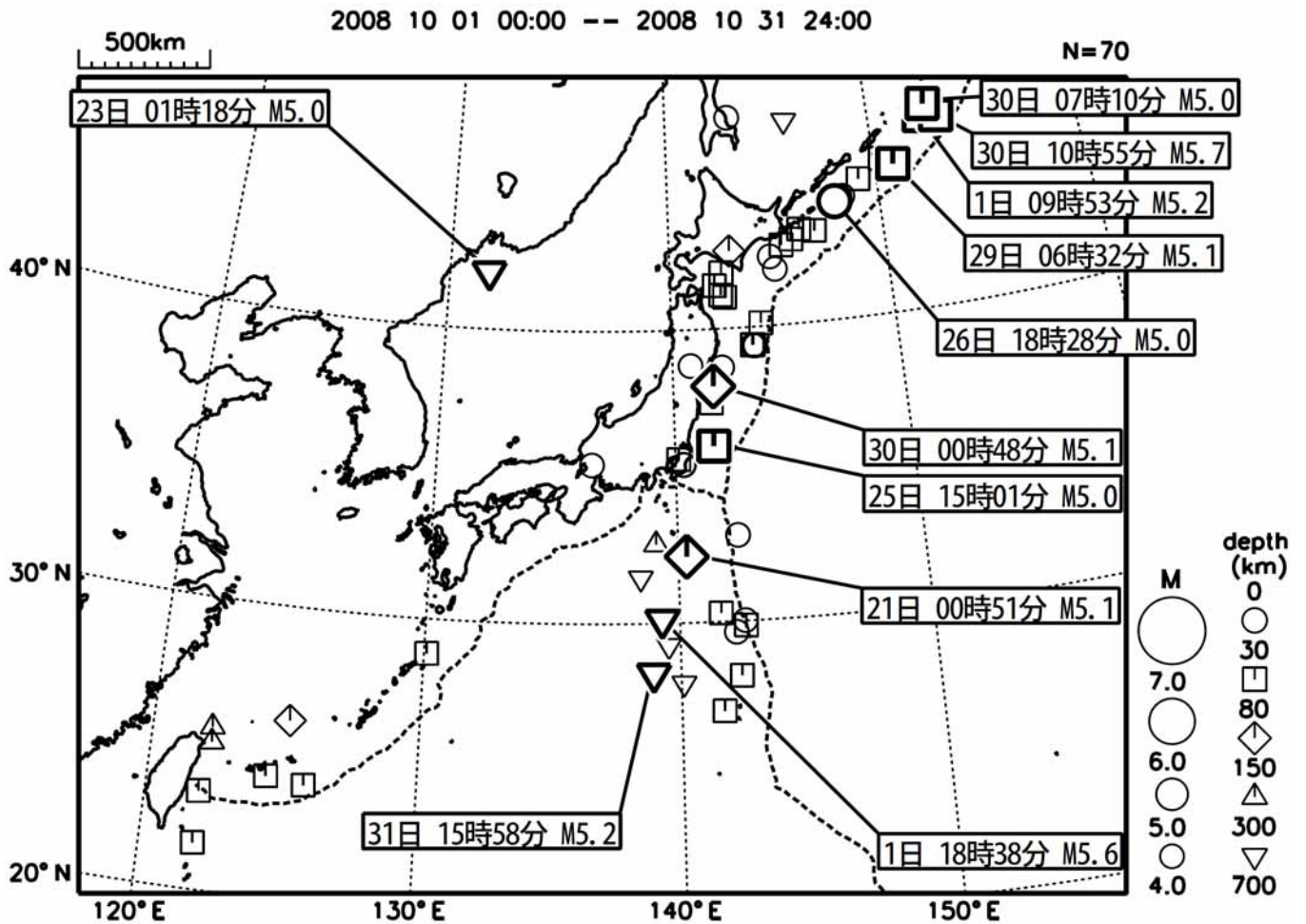
また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成9年10月1日より、大学や独立行政法人防災科学技術研究所等の関係機関から地震観測データの提供を受け^{**}、文部科学省と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用している。

なお、地震・火山観測データの整理結果については、「地震・火山月報(カタログ編)」に掲載している。

注^{*} 秋田県、埼玉県、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県、横浜市(神奈川県)(以上1府8県、1政令指定都市は平成9年11月10日から発表)、群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県及び愛媛県(以上6県は平成10年6月15日から発表)、青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県(以上1府11県は平成10年10月15日から発表)、東京都、長野県(以上1都1県は平成11年7月21日から発表)、栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)(以上3県、1政令指定都市は平成12年1月12日から発表)、滋賀県(平成12年3月28日から発表)、富山県、香川県、大分県(以上3県は平成12年7月18日から発表)、佐賀県(平成13年3月22日から発表)、山梨県、川崎市(神奈川県)(以上1県、1政令指定都市は平成13年5月10日から発表)、高知県(平成13年7月19日から発表)、福島県(平成13年12月12日から発表)、岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)(以上4県、1政令指定都市は平成14年3月20日から発表)、北海道、長崎県(以上1道1県、平成14年7月29日から発表)、沖縄県(平成15年3月10日から発表)の47都道府県、4政令指定都市と独立行政法人防災科学技術研究所(平成16年5月26日から発表)。

注^{**} 平成20年10月末現在：独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構による地震観測データを利用している。また、2008年岩手・宮城内陸地震緊急観測グループ(東北大学、北海道大学、弘前大学、東京大学地震研究所、名古屋大学、京都大学防災研究所、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所)のデータを利用している。また、東北大学の臨時観測点(夏油、岩入、鷲沢)のデータを利用している。

2008年10月の全国の地震活動 (マグニチュード4.0以上)



目立った地震活動はなかった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

気象庁・文部科学省（気象庁作成資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています）